

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行: 県立多治見病院緩和ケアチーム 2017年9月号 vol.78
文責: 土屋 あすか 編集: 櫻田 亜矢子

この春、1年の休暇(産休・育休)から復帰し、高精度放射線治療センターで勤務しているがん看護専門看護師の土屋あすかです。今日は放射線治療について少しお話をさせていただきます。

放射線治療は、手術、薬物療法(抗がん剤治療)と並ぶがんの3大治療法の1つで、とても大切な治療法です。放射線治療の目的は、大きく分け、がん細胞の根絶を目指すものと、骨転移などの痛みなど症状の緩和を目指すものがあります。

放射線治療は、患部に放射線をあて、患部の細胞のDNAに損傷を与え、細胞が増えないようにしたり、細胞が新しい細胞に置き換わる時に脱落する仕組みを促し、がん細胞を消滅させたり、少なくしたりして治療をしていきます。細胞分裂のサイクルを利用し、毎日(当院では平日の5日間)照射を積み重ね、がん細胞のDNAに損傷を与えていきます(がんの種類や放射線治療の目的により1回線量や照射回数は異なります)。このため、放射線治療は、切除することなくがんに対する治療効果を期待でき、臓器を残せたり、臓器の動きを維持できたりします。がんの種類によって放射線治療の効果(効きやすさ、治りやすさ)は大きく異なり、また、治療部位によって副作用の起こり方は様々です(放射線の副作用は、放射線が通過した治療部位のみに生じます)。先ほども書きましたが、放射線治療は毎日の積み重ねが重要で、副作用により治療が中断することのないよう副作用の管理をしていくことが大変大切です。

放射線治療を受ける方々が副作用をうまく管理しながら最後まで治療ができるよう、緩和ケアチームのメンバーとしても支援していきたいと思っています。放射線治療に関することで聞きたいことがありましたら土屋までご連絡ください☆

話題は変わりますが、育児休暇中にこころ惹かれた曲を1曲・・・

「みんなおんなじ」 森山直太郎

歌いたい歌 歌う喜び

タクアン ケハブ フライドポテト それぞれみんな おんなじ食べ物

キツツキ バッタ トムソンガゼル それぞれみんな おんなじ生き物

みんな違って みんなおんなじ 見ている僕も どこかおんなじ

みんな違って みんなおんなじ 君が笑えば 僕は御の字 君が笑えば 僕は御の字



「みんな少しずつ違うけれど、どこかおんなじだったりする・・・君も僕も少しずつ違うけれど分かち合える何かがある」というメッセージが込められているそうです。

病院には様々な専門職がいて、それぞれにいろいろな思いや考えがあると思います。でも、必ず分かち合えるところがあって、患者さんやご家族の力になりたいと日々奮闘しています。緩和ケアチームのみんなもそうです。この歌を思い浮かべながら、患者さんやご家族、スタッフの力になれるよう力を合わせていきたいと思っています。

★市民公開講座開催報告★

9/9(土)バロー文化ホールで開催しました市民公開講座には、359名という多くの方に聴講していただくことができました。アンケートには、今後在宅医療を受けてみたいという感想が多く寄せられ、実りのある講座となりました。

